

神戸国際大 災害弱者への 支援を考える 当事者招きセミナー

東灘区

神戸国際大学は28日、「地震津波に向けた防災減災セミナー」を東灘区向洋町中9の同大学で開いた。学生や障害がある子どももの親らが舞台に立ち、災害時に弱い立場にある人たちへの支援を考えた。

救急法の普及や防災活動に取り組む「神戸国際大学

セミナーで、来場者の質問に答える大学生やNPO団体の代表者ら＝神戸国際大学



防災救命クラブ（DPLS）の主催。リハビリテーション学部の学生を中心に、2009年に創部した。セミナーでは「神戸市重度心身障害児（者）父母の会」の武田純子会長＝東灘区＝が、阪神・淡路大震災を振り返り、自衛隊が提供した風呂が男女別で、男性障害者の入浴介助を母親ができなかったと説明。現在は住民らとの相互理解が進

障害や身体障害のある人たち45人から聞き取り調査をした。災害時に周りの人にしてほしいことがあるとした人が6割に上る一方、地域の人とコミュニケーションが取れていないと答えた人は53・3%だったと報告

した。同クラブの西村大樹部長（21）は「災害弱者の問題に男女の違いが影響するとは思わなかった。救助や支援はその点を工夫したい」と話した。

（篠原拓真）